

雑固体廃棄物減容処理建屋（高温焼却炉設備）付近における土壌試料の採取について

平成23年 6月13日
東京電力株式会社

1. 目的

雑固体廃棄物減容処理建屋（高温焼却炉設備）への滞留水の移送に際して、同建屋に接続しているトレンチへの汚染水の漏えいがみられたものの、周辺サブドレン水の分析結果に変化がないことから建屋外への漏えいはないものと想定しているが、今回、同建屋やトレンチの外への漏えい検知を目的として、ボーリングにより土壌試料を採取し核種分析を行う。

2. 土壌試料の採取方法

- ・ トレンチが設置されている深さを包含する - 6 m 付近 ~ - 13m 付近を 1 m 間隔でボーリングマシンを用いて合計 8 個の土壌試料を採取。
- ・ 採取した土壌試料 500cc 程度を保管容器に入れて、福島第二原子力発電所で核種分析を行う予定。

3. スケジュール

- ・ 6月11日から6月13日にかけて、合計8個の土壌試料を採取（本日、試料採取作業を完了）。
- ・ 6月14日から福島第二原子力発電所において、土壌試料の核種分析および評価を実施。
（分析結果が出るまで、2日程度を要する見込み）

以上

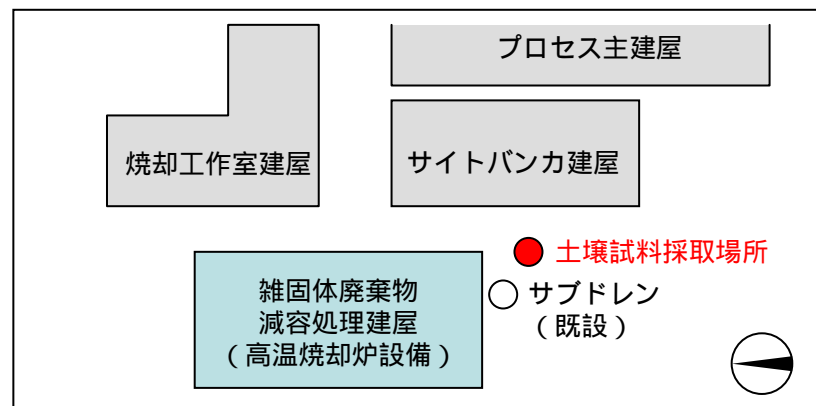


図1：雑固体廃棄物減容処理建屋（高温焼却炉設備）付近の土壌試料採取場所

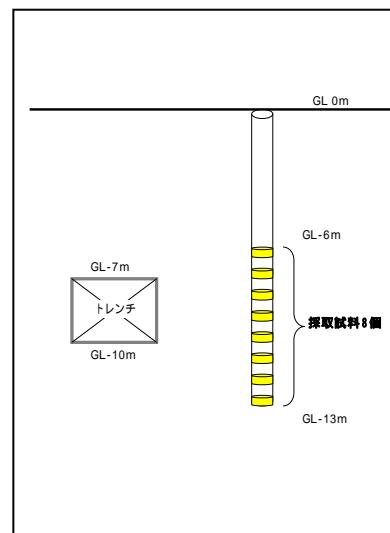


図2：土壌試料の採取位置



画像：ボーリングマシン・採取試料

撮影：東京電力株式会社
撮影日：平成23年6月12日